日刊工業新聞

年月日	23	01	11	ページ	06	NO.	

進む 健康経営

重大リスク判定シート配布

横河レンタ・リース

横河レンタ・リース（東京都新宿区、沢和久社長）は定期健康診断に基づいた独自の「就業区分判定個人シート」を従業員に配っている。シンプルな構造に仕立てて〝見るハードル〟を低くした。

「何をどれだけ改善すれば問題なく就業できるか」を分かりやすく示して、従業員自身が健康に気を配りやすくしている。

量が多い。だから〝赤字〟だけ見る―。健診結果の報告書は項目が多くて見きれず、注意書きがある部分しか見ない人も多いだろう。まして数値だけの羅列であれば、なおさら見るのがおっくうになる。

さらに就業区分の判定基準は「医療機関ごとに微妙に異なっており、従業員にとって分かりづらい」と指摘するのは石井慈典人事総務部長。そこで同社は突然死や脳・心臓疾患といった重大リスクにつながる項目に絞った就業区分判定シートを作成し、約10年前から従業員に配布している。

同シートは「血糖値」「血圧」「脂質」「肥満」の四つに焦点を当てている。これらの数値がどういうレベルなのかも示して、従業員が見やすいようにした。就業区分は産業医が監修した4段階で判定される。最終判定は所属長も共有する仕組みだ。所属長は最終判定しか知らされないものの、社内の統一基準による結果なので部下の健康状態を把握しやすくなる。

〝見やすいシート〟は従業員が生活習慣や働き方を見直すきっかけとなる。石井部長は「根拠をもってシンプルに説明できるのが大事だ」と強調する。

2022年に5年連続で「健康経営優良法人」に認定された同社。「健康経営」をテーマに自社の取り組みを社会に還元する活動にも力を入れる。公的な活動が認められ、同社の保健師が17年度に労働災害防止団体連絡協議会より会長表彰「功績賞」を受賞した。

「積極的に健康増進活動をしていき、当社から発信して健康経営を普及させていきたい」と石井部長は力を込める。

（日下宗大）

17年度に横河レンタ・リースの保健師が労働災害防止団体連絡協議会より会長表彰「功績賞」を受賞（同社提供）

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社